

「人知をはるかに超えたキリストの愛」

エペソ人への手紙三章十四～二十一節

今朝の中心となるみことばは、十八、十九節「人知（知識）をはるかに超えた（超絶した）キリストの愛を知るように」です。

エペソ人への手紙は、使徒パウロによる幽囚書簡の一つです。

神は、贖いによる救いのご計画をもって『実現されようとしている聖なる教会の奥義（神の側から御霊のはたらきによってだけ解らされるもの）』に関する手紙です。

三章までが教理。六章までが実生活の問題です。三章十四節からの祈りです。

I. キリストの愛を知り続ける理由とは

世の戦いに打ち勝つためには、「御霊によって内なる人が強められる必要がある。その理由は『愛なしに心霊的に強められず、御霊によってキリストを心の中に住まわせな

いで愛はわからない』。神の愛に満ち溢れないで強くあることは出来ない。」（葛田）

II. キリストの愛を理解するとは。

「愛の広さ、長さ、高さ、深さがどれほどあるかを理解する力を持つようになって知る愛」という。O・チェンバースは、ヨハネ福音書三章十六節に結びつけて神の愛の偉大さを解説している（省略）。

III. 愛とあわれみとの関係とは。

「キリストの愛を知り続ける」という時、個人的経験として具体的な愛を知るには二章一～十節、特に四節は大切と思います。

「神のあわれみ」と「愛」との関係の理解です。「一言でいえば『愛はあわれみとなって現われている』そのあわれみは主イエス様の姿にも多く見ることができる。

IV. あわれみに含まれる意味とは。

「あわれみ」はヘブル語の語源をたどると、「胎」を表わす「ヘム」から派生したものであるというそうです。『母の胎から出たわが子への切るに切れない愛と思いやりの感情』が「あわれみ」の概念とある。まさに『神のあわれみは、神の愛無限の偉大さの結果（現われ）である。』その感情は、母の胎にしっかりと包まれている（同梱同胎の愛の絆）と解説者は言っている。

フランスのある神学者は『神はご自分の愛を地上に徹底させるために母を造られた』とある。母の愛は崇高です。神の愛は更に偉大です。

V. 結び

「人知をはるかに超えたキリストの愛を知る」

パウロがロマ十二章一節に「あわれみのゆえに」と言う意味を知った礼拝者へと成長したい。

■有志ボランティアによる
無料食品配布の第2回目実施

・食料品配布日 2月5日(土)

会場 シオン館

皆様に覚えていただきお祈りと協力が寄せられて準備が着々と進んでいます。近隣の方々の協力も多くあり、食品提供だけでなく様々な形での協力の申し出もあります。後日状況を報告致します。

今回の支援も必要としている地域の方々に十分に届くように引き続きお祈りください。

聖書には社会的弱者を顧みることが教えられており、2000年の教会歴史を見ても、初代教会の頃より教会が支援を必要とする人々を助けてきました。これをディアコニアの働きと言います。そのような働きで社会福祉等の分野が発展・展開してきました。近年はキリスト教界でもディアコニア神学として定義づけられています。今後、このことについて学びの機会を持てたらと考えています。

■2月の礼拝説教予定

6日	荻野牧師	マタイの福音書	22章
13日	荻野牧師	マタイの福音書	23章
20日	穂谷牧師	創世記	
27日	荻野牧師	マタイの福音書	24章